

傷病手当金受給者における前年の健診状況について (第11回協会けんぽ調査研究フォーラム発表資料)



【目的】

- ・ 広島支部では、2023年度、**約2万人**(被保険者の3%)が傷病手当金を受給
- ・ 傷病によっては**長期休職**が必要
- ・ 会社にとっては**人材不足のリスク**となり得る



傷病手当金受給者の前年度の健診状況から、

- ・ **傷病手当金受給に至りやすい傾向**
- ・ **休職を予防するための事業に資する情報** を
明らかにするために、分析を実施。

【方法】

多変量解析(二項ロジスティック回帰分析)にて検証(有意水準は $p < 0.05$)。
解析にはSPSS Ver.29を使用した。

- ① 2022－2023年度に連続で加入する広島支部の35歳以上被保険者(男女別)を対象に、
『2023年度における傷病手当金(全傷病)の受給有無』を目的変数とし、
『2022年度における健診の受診有無』『年齢(10歳階級)』
『事業所規模(5人未満～500人以上)』を説明変数として同時投入した。
- ② 2022年度に健診を受診した広島支部の35歳以上の被保険者(男女別)を対象に、
『2023年度における傷病手当金(疾病分類別)の受給有無』を目的変数とし、
『血圧/血糖/脂質の各健診結果区分
(異常なし/服薬中/特定保健指導対象域/医療機関受診勧奨域)』
『喫煙/運動/食事/飲酒/睡眠の各質問票回答区分(問題なし/要改善)』
『年齢(10歳階級)』『事業所規模(5人未満～500人以上)』
を説明変数として同時投入した。

説明変数の定義（健診結果区分）

異常なし	「服薬あり」・「特定保健指導対象域」・「医療機関受診勧奨域」のいずれにもあてはまらない者
服薬あり	問診で服薬ありと回答した者
特定保健 指導対象域	以下に該当し、かつ問診で服薬なしと回答した者 （医療機関受診勧奨域を除く） ○血圧： SBP130mmHg以上 or DBP85mmHg以上 ○血糖値： FBS100mg/dl以上 or HbA1c5.6%以上 ○脂質： TG150mg/dl以上 or HDL40mg/dl未満 or LDL140mg/dl以上
医療機関 受診勧奨域	以下に該当し、かつ問診で服薬なしと回答した者 ○血圧： SBP160mmHg以上 or DBP100mmHg以上 ○血糖値： FBS126mg/dl以上 or HbA1c6.5%以上 ○脂質： TG300mg/dl以上 or HDL35mg/dl未満 or LDL180mg/dl以上

説明変数の定義（質問票回答区分）

喫煙習慣 要改善者	「現在、たばこを習慣的に吸っている」に「はい」と回答した者
運動習慣 要改善者	「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上1年以上実施している」 「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」 「ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い」 に2問以上「いいえ」と回答した者
食事習慣 要改善者	「人と比較して食べる速度が速い」 「就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ある」 「朝昼夜の3食以外に間食や甘い飲み物を摂取していますか」 「朝食を抜くことが週に3回以上ある」 に2問以上「はい(速い・毎日)」と回答した者
飲酒習慣 要改善者	「お酒(日本酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲む頻度」 「飲酒日の1日当たりの飲酒量」 に「毎日2合以上」又は「時々3合以上」と回答した者の割合
睡眠習慣 要改善者	「睡眠で休養が十分とれている」に「いいえ」と回答した者の割合

【結果】①

健診未受診者は（男女ともに） 翌年度に傷病手当金を受給し易い

傷病手当金（全傷病）受給のオッズ比と95%信頼区間

男性

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0

女性

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0 8.0

健診未受診 ***
(基準は健診受診)

健診未受診 ***
(基準は健診受診)

(基準) 30代

(基準) 30代

40代 *

40代 **

50代 ***

50代 **

60代 ***

60代 ***

70歳以上 ***

70歳以上 ***

小規模事業所は
男女とも受給し難い

(基準) 0~4人

(基準) 0~4人

5~9人 ***

5~9人 ***

10~29人 ***

10~29人 ***

30~49人 ***

30~49人 ***

50~99人 ***

50~99人 ***

100~499人 ***

100~499人 ***

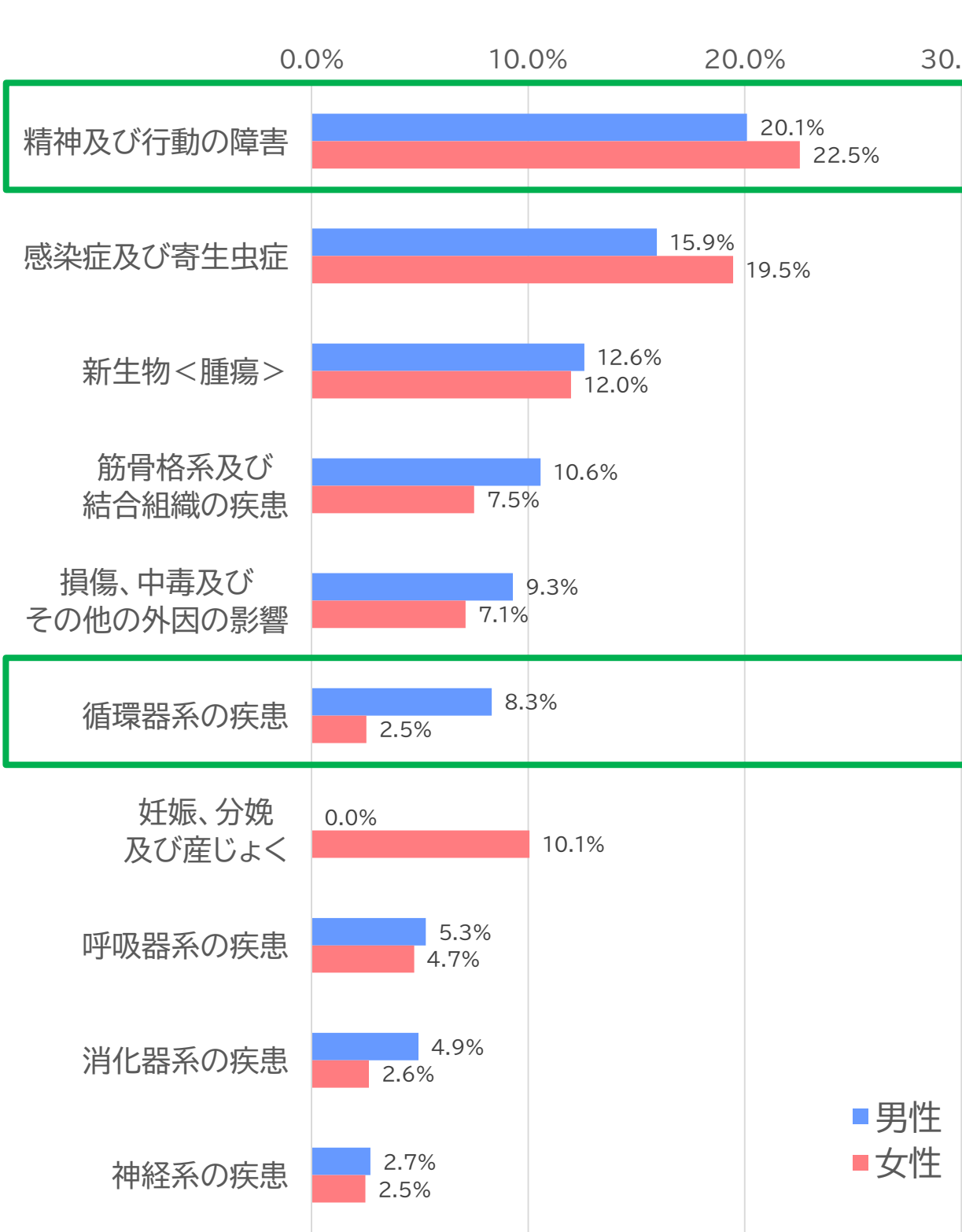
500人以上 ***

500人以上 ***

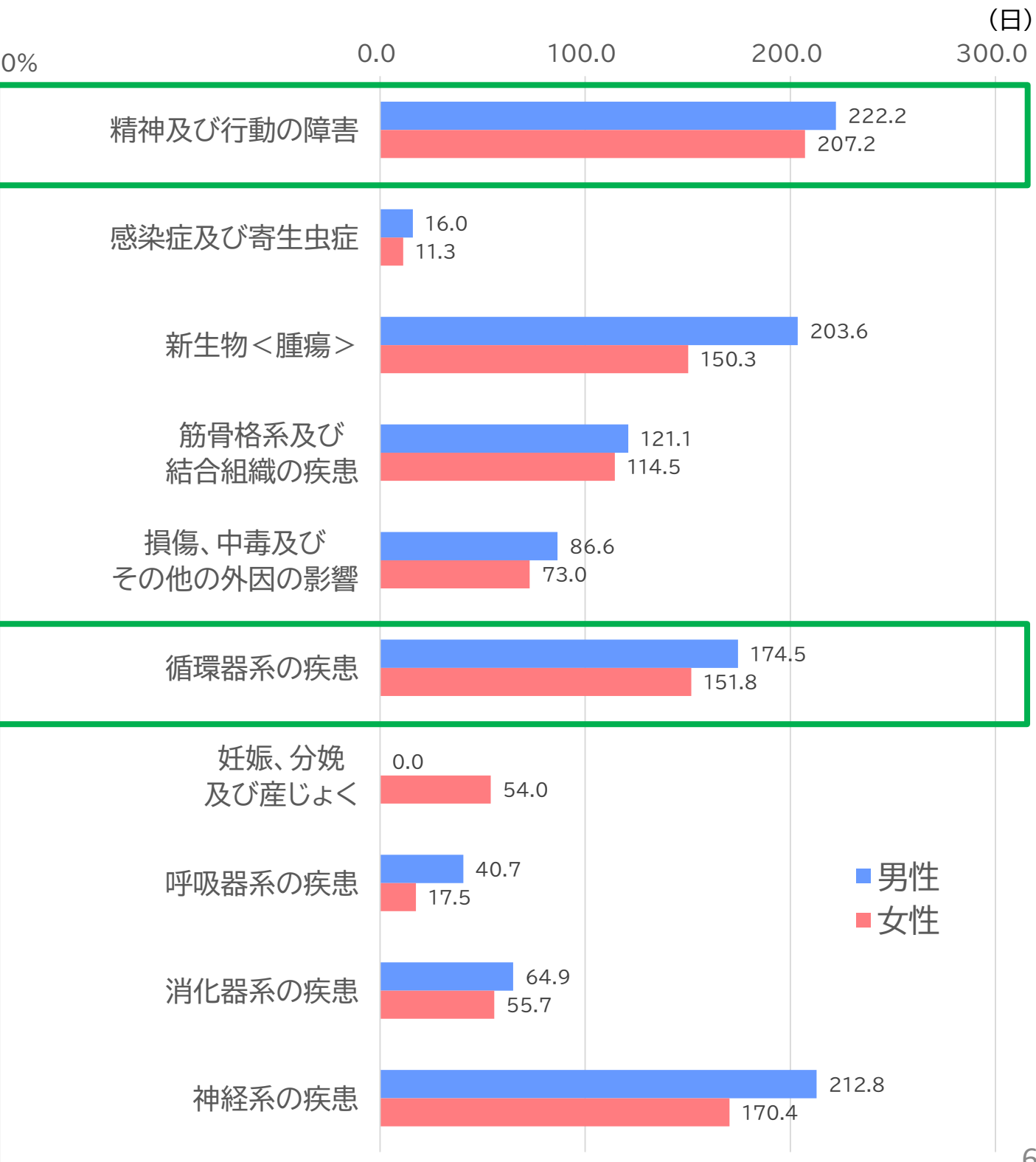
* : p<0.05, ** : p<0.01, *** : p<0.001

(参考) 傷病手当金(傷手)受給者の現状 (2023年度)

傷病手当金受給者の構成割合
(上位10傷病)



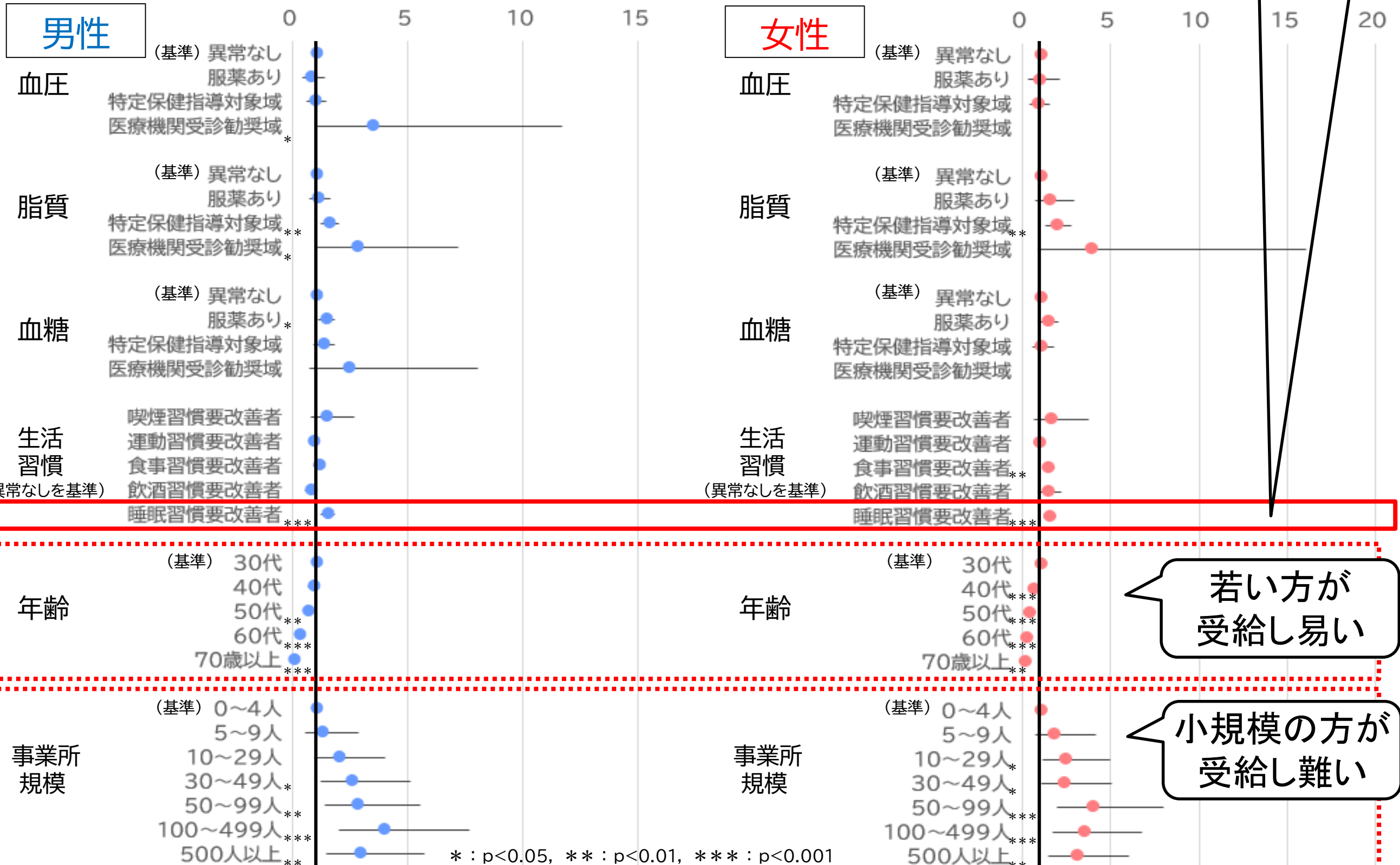
平均支給日数
(起算日から申請の支給末日までの期間)



【結果】②-1

「睡眠不足」者は（男女ともに） 「精神行動障害」で傷手受給し易い

傷病手当金（精神及び行動の障害）受給のオッズ比と95%信頼区間



若い方が
受給し易い

小規模の方が
受給し難い

【結果】②-2

「**血圧リスク未治療**」者は（男女ともに） 「**循環器系疾患**」で傷手受給し易い

傷病手当金（**循環器系の疾患**）受給のオッズ比と95%信頼区間

男性

女性

血圧

血圧

脂質

脂質

血糖

血糖

生活習慣
(異常なしを基準)

生活習慣
(異常なしを基準)

年齢

年齢

事業所規模

事業所規模

高齢男性は
受給し易い

小規模の方が
受給し難い

* : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

【考察①】

- ☑ 健診受診により、早期の生活習慣改善や治療開始につながり、休職を予防できた可能性が考えられる。
- ☑ 医療機関の受診や生活習慣の改善等、傷病によって異なるアプローチが休職の予防に有効と考えられる。
- ☑ 0～4人規模の事業所では傷病手当金受給者の割合が有意に少なく、病休者を抱える余裕がないことや、傷病手当金の制度を知らない可能性が考えられる。
- ☑ 「循環器系の疾患」など一部の疾患を除き、男性に比べ女性の傷病手当金受給者の割合が高く、病休制度の整っていない短時間労働者等で傷病手当金を受給している可能性が考えられる。

【考察②】

《今後の取組予定》

- ☑ 健康経営の取組の一環として、事業所に向けて医療機関の受診勧奨や喫煙対策、睡眠習慣改善等に向けた職場環境の整備を促す。
- ☑ 有給の病休制度が整っていない事業所や労働者にとって、傷病手当金による生活保障の意義が大きいことから、制度の周知を図る。
- ☑ 健康経営の取組が休職に与える影響の分析等、より効果的に休職を予防する方法を探る。